



5年生が、社会科「自然災害が多き日本の国土」で、宇部市防災危機専門の先生方と一緒に学習をしました。

自然災害が日本国内の様々な場所で起き、大きな被害が出ていることを子どもたちはよく知っており、授業中も身近な人の体験や家族から聞いた話をしていきます。

今回、宇部市デジタルハザードマップを利用しながら、自分の住んでいるところや利用している場所に発生すると想定される災害を調べました。そして過去に起きた宇部市の災害もふまえ、自分たちの暮らしを守るために、どのような取り組みをしていけばいいかを考えました。

「3日分の食べ物を準備したほうがいいって家族に伝えてなければ」「避難のとき、何を持ち出すか決めておかなければ」…家族と一緒に安全な暮らしを守るためにどうすればということを授業が終わっても話し続けていましたよ。

身を守るは、まず「知ること」そして「自分だったらどうする」ですね！！